



山口大学 医学部
先端がん治療開発学講座 教授
磯 彰一

海外 FISHING 紀行

始めにお断りしておきますが、私は決して優雅な釣り三昧生活を送っている訳ではありません。学会参加に際しては、必ず発表をするようにはしています、できるだけ多くのプログラムを聴講するようにしておりますが、何年かに1回、ごくまれにたった1日だけ、それも専門分野のプログラムが無い日を厳選して釣行の計画を立てます。また、北里大学のKWS先生のように豪快な釣りをしている訳でもありません。日常的な服装のまま気軽に出かけられる、極めて安易な計画しか実行できていません。それだからこそ真面目で一般的な釣り愛好家のお役に立てるのではないかと筆をとりました。



初めて海外での釣りを経験したのは、2001年 Australia の Cairns でした。その

ころから兄貴分として慕っていた聖マリアンナ医科大学のKMR先生、北里大学のKWS先生のご一門と事前に遊漁船を予約していました。現地には早朝到着し、チェックインもせずにそのまま港に向かいました。船室付きの豪華な船でしたが、何しろ前夜の成田空港ラウンジからワインやウイスキーをしこたま飲み始め、Cairns 到着まで機内で飲み明かしたあげくの出船でしたから、船酔いやら二日酔いやら訳の分からないまま多くの時間を船室で横になって過ごしていました。皆がソファで倒れている中、強者のKWS先生とKMR先生が巨大なサワラを数本釣り上げられました。大きなものでは80cmを軽く超えていたと思います。クルーは手際よく、サワラの頭をはね、身を三枚に下ろしてくれ、身の部分はわれわれが持ち帰ってホテルでフライにしてもらい、その夜のパーティーで大好評でした。この時の記憶の中で最も印象深かったのは、港に帰った時クルーが三角形のバレーボールぐらいのサワラの頭を波止場の海中に投げ込んだ時のことです。海底からとてつもなく大きな口を開けたハタ科の魚がゆらっと現れ、巨大なサワラの頭をひと呑みにしました。あのサワラの頭をひと呑みにする巨大魚が居る港、恐らくハリとワイヤーを仕掛けておけば簡単に釣り上げることも可能はずです。次に Cairns に出かけたときにはきっと……。

次の機会は、2004ASCO でした。New Orleans の南方ではミシシッピ川が海に注ぎ、周辺には湿地帯とも海とも区別が



付かない入り組んだ汽水域が広がります。私と盟友の吉野茂文は、小型のボートを借りて入り組んだ湿地帯に繰り出しました(写真①)。何が釣れるのだろうか、あわよくば Cairns で出会った大型のハタが来るかも、と期待を抱きながら糸を垂れていると(写真②)、おびたらしい数のアリゲーターが船の周りに集まってくるではありませんか(写真③)。するとクルーがポケットからピストルを取り出し、アリゲーターを射撃していました。



自然界のワニとピストル射撃を生で見たのはこれが初めてでした。結局釣れたのは仕掛けのウキに食いついたアリゲーターだけでしたが……。

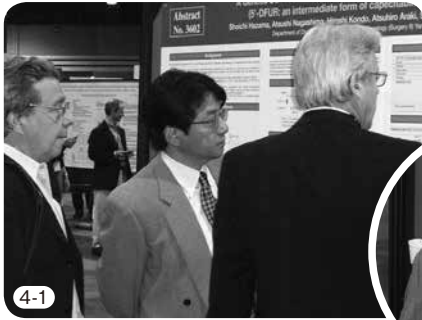
2006 ASCO は Atlanta で開催されました。繰り返しになりますが、ちゃんと発表もしています(写真④-1)。極めて真面目であった私は午前中いっぱいポスター会場で外国人としゃべり続けて意識朦朧となった記憶があります(写真④-2)。

翌日、Atlanta 郊外の河川にボートで出ましたが、自慢のロッドケースが空港で行方不明になってしまったため仕方なく船の仕掛けを借りてニジマスを狙いました(写真⑤)。日本から持ち込んだ、ここには書くことのできない秘密道具のおかげでクルーが驚くほどの釣果でした(写真⑥)。あまり大きくはありませんが……。



2007年から ASCO はずっと Chicago で開催されています。Chicago と言えば緯度は北海道と同じで、冬は -20°C に





写真説明

- ① 私と吉野先生。後ろは陽気なクルー。日焼け止めを塗りたくっているため人種が不明である
- ② 竿先とウキ
- ③ 船に近づくアリゲーター
- ④ -1 ポスター会場にて
- ④ -2 意識朦朧になっているところ
- ⑤ 借り物のロッドで
- ⑥ ニジマス

なることもある北国です。目の前には Michigan 湖が広がっています。この気象条件からすると湖には必ずトラウトが生息しているはず。調べてみると 1 m を超えるアトランティックサーモンが上がるようです。ただし、ASCO が開催される 6 月には気温が上がるため魚は北の方に移動し、6 月に釣れるのはコーホーサーモンという最大 60cm クラスのあまり美味しくないものだけのようです。それでも、KWS 先生のグループ（盟友吉野先生含む）と私のグループ（箕面市立病院の KTO 先生、同門 STO 先生含

む）でクルーザーを 2 隻貸し切ってトロリーリングに出かけました。湖とはいえ、大きさからすると海とまったく区別が付きません。波も立ちますし、うねりもあります。この日は幸いにもべた風で Chicago の町並みもよく見えました（写真⑦）。竿を 10 本ほど船尾の両脇から流し、しばらくトロリーリングしていると大きなあたりがありました。これは KTO 先生の勇姿です（写真⑧）。

約 60cm がアベレージサイズ。釣れたのは大体このクラスでした（写真⑨）。港に帰ると手違いで迎えの車が来ておら





ず、タクシーが通る道路まで大漁の重い魚を抱えながら歩く羽目になりましたが、その後、日本料理店にサーモンを持ち込みフライにして皆でいただきました(写真⑩)。コーホーサーモンの味はやはりイマイチで、たまたま釣れたアトランティックサーモンの超小型の方が美味しかったのが残念でしたが、それでも釣りがたてのサーモンは大変美味で忘れられない1日となりました。

先にも述べましたように ASCO はこの年から Chicago に固定となり、ほぼ毎年参加はしていますが、再びコーホーサーモンを釣りに行く気力も無く、この後の主戦場は欧州へと移りますが、紙面もつきましたので釣行記を終わりにしたいと思います。機会がありましたら Sweden や Austria の話もさせていただきますが、特に Austria の Liezen ではこの世のものとは思えないような素晴らしい幸運に恵まれました。



写真説明

- ⑦ 湖から CHICAGO の町並み
- ⑧ 竿が曲がる
- ⑨ コーホーサーモン
- ⑩ サーモンのフライ